

牛久：学校周辺に見る自然

第7号 ひたち野うしく小，中根小，牛久二小，牛久二中

2010年5月17日発行

<マメ科の仲間 その②>

マメ科の仲間の続きです。マメ科の花にはミツバチがよくやって来て、蜜を吸い、花粉を別の花に運んでくれますが、マメ科植物にはもっとすごい一面があります。今回はそのことも紹介しましょう。

⑤フジ



⑥フジにクマバチ



左は牛久二中のフジ。甘い香りが漂っていました。右は中根小で昨年撮ったものですが、フジの蜜を吸いに来ているクマバチです。以前もご紹介しましたが、「クマンバチ」とよんでいるのは(キイロ)スズメバチのことで、これとは違います。

⑦ニセアカシア



ハリエンジュともいい、庭木や蜜源として植えられていたものが野生化したといわれており、今ではぐんぐんと分布を拡げ、困った存在にもなっています。遠くからでも甘い香りが漂ってきますが、「アカシアの蜂蜜」として売られているものの多くはこの花の蜜のようです。分布拡大の原因の一つに、「マメ科植物のすごい一面」があります。マメ科の根を掘ってみると、

小さなこぶのようなものがたくさんついています。「根粒こんりゅう」とよばれていますが、この中には根粒菌こんりゅうきんという別の生き物が住んでいて、空気中の窒素ちっそを植物の肥料に変えてくれるのです。かわりにマメ科植物は、この菌に自分のつくった栄養の一部を与えています。こういう関係を「共生きょうせい」といいます。【理科支援員・宮内】

⑧レンゲソウの根粒



⑨枝豆の根粒



⑩ラッカセイ(おまけ：中根小)

